

## 船井情報科学振興財団留学報告書

Department of Economics, Northwestern University

村上愛

無事に博士課程も5年目が終了しました。経済学のPh.D.コースではおおむね6年目にいわゆるジョブマーケットに出て就活を行うのですが、私は7年目に延期することにしました。今回はその経緯を報告したいと思います。

前回の報告書でも少し触れましたが、昨年(2021年)の夏、日本滞在中にちょっとしたアクシデントがあり、半年間のPh.D.プログラム休学をとりました。親知らずを抜くため、ぶらりと立ち寄った駅前の歯医者で抜歯に失敗してしまったのです。1時間以上ペンチのようなもので引っ張られた後、歯の一部だけ削られて帰宅しました。その後炎症が悪化してしまい、口が開かないほど腫れ、眠れないほどの激痛におそわれました。結局、大学病院に駆け込むはめになりました。実は本来安易に抜こうとしてはいけない親知らずだったということが精密検査で分かりました。治療期間と手術日程を考えると学期開始までにアメリカに戻るできないことが判明し、Medical Leave of Absence、つまり医療的な理由による休学をとることしました。

医療的な理由による休学をとるためにはいくつかのステップをふむこととなります。まずはオンラインでフォームを作成し、事情を説明して申請します。英語で作成された診断書の提出も必要でした。書類は大学側で医療の専門家によって審査されます。審査が受理されると、手続き事項について大学の事務員の方とZoom面談を行い、それによって休学が開始されました。

この医療的理由による休学の場合、Northwestern Universityでは、最大で半年間、生活費が支払われます。充実した福利厚生に大変驚きました。ただし、これは治療に専念するためなので、授業への参加などはしないようにと説明されました。

休学期間中、噛むことが難しくなったため、ずっと食事をとるのに苦労しました。まずは失敗した手術による炎症の治癒を待ちました。炎症の鎮静化後、再度抜歯の手術を試みることになりました。麻痺が残る可能性もあると説明を受けましたが、幸い手術は成功し、後遺症も出ないですみました。経過観察も順調だったので、無事に半年後にプログラムに復帰することができました。

プログラムに復帰する際も、最初に休学申請をした時と同様の手続きを踏みます。

今度は学業に専念できる状態であると証明する必要があります。治療内容と現在の状態を記した診断書を提出し、審査してもらいます。大学の事務の方とまた Zoom 面談し、博士のプログラムを再開するために必要な書類を送付してもらいました。以上の手続きにより休学を終えることができました。

実は、休学から復帰して2週間たったところで再度同じ事務員さんと Zoom 面談を行いました。これは久しぶりにプログラムに復帰したことで健康状態が悪化するか、あるいは精神的に辛いことなどがどうか確認するというものでした。幸い私の場合特に必要なものはありませんでしたが、求めれば学内の別のカウンセリングサービスなどへの紹介もしてくれるようでした。充実したサポート体制に再び驚きました。

このように半年休学したため、アドバイザーと相談した結果、就職活動を行うのは7年生の冬にしようということになりました。これからしっかり指導をしたいとおっしゃってくださったので、焦ることなく Job Market Paper（就活用の博士論文）を磨いていくという事になりました。

研究を洗練させる時間が延びるのは良いのですが、7年生まで博士課程に在ることの問題になるのは funding です。普段、博士課程の生活費は経済学部から TA の対価として支払われています。そして、TA として生活費が保証されているのは本来6年生までです。休学によってどう影響が出るのか早速学部に確認することにしました。

実は、休学期間中の生活費は経済学部ではなく大学院の本部にあたるものから支払われていました。つまり経済学部の fund を使っていませんでした。そのため、本来6年生まで保証されている TA の仕事を私の場合は7年生まで延長してもらえることになりました。それだけでなく、就活専用の3学期間の fund も7年生で使えるとわかりました。この就活専用 fund を利用している間は TA として働く必要もなく、十分な生活費をもらいながら研究と就活に専念できるので大変うれしいニュースでした。

抜歯に失敗し、さんざん痛い思いをしたのは辛いことでしたが、大学の充実した福利厚生により治療に専念できたことを本当に感謝しています。人生塞翁が馬、研究にかける時間がのびたことをポジティブに捉え、よりよい博論に仕上げたいと思っています。